

自然災害論

生活環境コース・理科教育講座・高橋治郎

1. 授業のねらいと形態

近年、大規模な自然災害が我が国や世界各地で発生している。2011年3月11日には「東日本大震災」が発生し、地震や津波の恐ろしさを再認識させられた。本授業は、私たちの身の回りでどれ程の自然災害が起きているのかを認識するとともに、①自然災害が発生するメカニズムを理解する、②自分自身や近くの人たちをどのようにして自然災害から守るか、③そのためには今のうちから堂いった準備をしておかなければならないのか、こういったことを理解し、身に付けることをねらいとしている。

授業の進め方は、最近発生した気象災害や地震災害、斜面災害等について、授業者が調査研究を行ったものを中心に紹介するとともに、素因と誘因とを受講生一人ひとりに考えさせ、どうすれば被害を最小限に食い止められるかを議論しながら考えてゆくというものである。こうした事例研究とともに地形や地質、気象、さらには現在の社会状況についても説明し、理解を求めた。毎回、パソコンでスライド投影して映像を見せる努力をした。

2. 受講学生の実態

受講学生の内訳は、学校教育2名、生活環境11名、情報教育10名、(以上2回生)、人間社会1名(3回生)、生活環境2名(4回生)の合計26名である。なお、途中から生活環境1名(4回生)が受講を取りやめた。

3. 学生の反応及び評価・改善点の指摘

受講生からは、授業後次のような評価、改善点を指摘された。

「今年の3月に東北で大地震が起こり、自然災害論の授業は興味を持った。私は映像でしか被災地の様子を知らないの、実際どのような様子であるとか、被害を受けた人たちの心情はどんなものであるかわからない部分が多い。…今後30年の間に南海地震が起こる確率が高いということもあ

り、しっかりと自分の身を守れる方法を考えないといけない。…自分をしっかりと守り周りの人も守れるような人になりたいと思う。もし家を建てるのであれば相談に行きます。」

「この自然災害論の講義では、役立つことばかり教えてもらいました。…自然災害を人ごとのように今まで思っていたけれど実際は自分にも降りかかることだと思い、自然災害について関心が持てました。…この講義で学んだことをいかして、助け合いたいです。」

「自然災害論の授業において、より災害を現実的に身近にとらえるようになりました。先生やみんなの意見を授業の中で聞いて、気持ちをみんなと共有することができました。…松山の防災マップには先生が深く関わって制作されたようですが、大切に保管するとともにしっかりと読み込み、知識を増やしたいと思います。」

「自然災害論を受講し、改めて災害に対する自分の意識の低さに気づきました。…この講義をきっかけに、災害が起こったことについて様々な意見、不安に思っていたことが聞き手、対応策も学ぶことができたので、とても勉強になりました。今は、東北で大きな災害があったばかりで、緊張感がありますが、これからもずっとこの気持ちを忘れないようにしたいです。」

「東北地方大震災が起こって災害について知っておかないといけないと思いこの授業をとりました。メカニズムや対策について知りたかったも授業内容も自分が知りたいことをちゃんと取り上げられていたので良かったと思います。…良い授業だったと思います。」

「私は3.11の東日本大震災をきっかけに、自分でも防災について学ぼうと思ってこの授業を受講しました。1回生の前期「人の暮らしと自然」で高橋先生のことは知っ

ていたので、授業で出席をとりつつ意見を発言するというスタイルにも抵抗はありませんでした。結構おもしろかったのはみんなに「何か恐ろしいことない？」とか「どう思った？」とかいう質問で、みんなが自分の経験や気持ちを思いのままに語るというのが新鮮で良かったです。…これからも身近な地域での防災・減災を考えながら生活していこうと思っています。この講義を受講してよかったです。ありがとうございました。」

「この授業では、実際に役立つ知識を多く学ぶことができたので、とてもためになりました。私は今まで、特に災害が起きたときどうするか、具体的な対策や避難する手段等について考えたことはありませんでしたが、この授業で具体的にどうすればいいのかを知ることができました。東日本大震災の直後にこの授業を受けることができよかったです。これからもこの授業で学んだ知識を忘れず、しっかり対策をして、災害で命を落とさないようにしたいと思います。ありがとうございました。」

「私はこの授業で先生が“とりあえず絶対に死ぬな”と言われていたことがとても印象に残っています。今回の講義を通して自然災害の恐ろしさを改めて知りました。3月11日の東日本大震災により、自然災害の備え方をもう一度見直し必要があると全国的に言われていますが、一人暮らしということもあり、いまいち、どのようにしなければならぬのかわからなかったもので、4回生の今、受講することができよかったです。…地震だけではなく、他にも様々な自然災害がありますが、どのような災害からもきちんと身を守り、とりあえず絶対に死ぬことのないよう、今回学んだことをしっかり活かしていきたいです。…」

「この授業が他の授業等に比べて良いと思うところは、学生も一緒に参加している点だと思います。他の授業では、先生の話聞いてそのまま聞いただけ、というの多いですが、この授業では学生一人一人が自分の意見を毎時間述べる機会があったので聞いて終わるだけでなく、自分で考えて答えを見つけていくので、それがとても良かったと思います。また、その一人一人の意見に先生が丁寧に回答してくれてうたので

わかりやすかったですし、実際にためになる知識も身につきました。この授業は実際に生活の中で活かしてこそ意味のある授業だと思うので、ただ単位どうこうというのではなく今後の自分自身心がけていきたいです。数ヶ月間の授業でしたが楽しく受けることができる授業でした。…」

「今回この授業のおかげで自然災害について改めて考え直すことができました。私は今まで自分の身の回りで大きな災害が起こったことがないので、この先もきっと大丈夫だろうと勝手に思い込んでいましたが、そんな考え方は絶対にダメだとわかりました。…日頃から常に災害について頭に入れておいて、家族とも避難場所について話し合ったり、非常食も用意したりして、災害に備えるようにしようと思いました。本当に大きな災害が起こったときに今回の自然災害論の授業を活かせるようにがんばります。本当に自分のためになるとても良い授業でした。この授業をとって良かったと思いました。ありがとうございました。」等々

4. 授業の改善点

東日本大震災後の授業であったため、受講生からタイムリーで生活にすぐ役立つ、などという好意的な感想や評価をもらった。確かに、生々しい情報が毎日マスコミから発信される時期であったので、受講生も関心を持って授業に参加できたものと思う。そういう意味では、例年とは大きく異なる授業ができた。

授業者としては本授業を通して高まった防災意識をどう受講生が今後も持ち続けてくれるか、さらに今後も自然災害にまつわる新たな知見を身につけてくれるか、こうした点に不安を感じている。毎年のように日本や世界のどこかで発生している自然災害から、身を守るための手立てを各自が考え行動できる人になってくれることを期待している。

映像世代の受講生であることや地学を学習していないことを念頭に置き、今後、さらなる授業改善を行ってゆきたい。すなわち、学生自らの力で問題解決できる能力を高めるとともに、本授業のねらいが達成できるよう教材開発を含め努力してゆきたい。